

## 第19回流山市全市コミュニティ推進委員会会議録要旨

- 1 日 時 平成24年3月22日(木) 午後1時
- 2 場 所 市民活動推進センター大会議室
- 3 出席委員 相川 征治 委員長、狼 正久 副委員長  
梅谷 秀治 委員、河村 栄夫 委員  
小泉 尚子 委員、染野 智司 委員  
野路 烝一 委員
- 4 欠席委員 関谷 昇 委員、高市 正高 委員
- 5 事務局職員 兼子 潤一 コミュニティ課長  
高橋 とし子 コミュニティ課長補佐  
須郷 和彦 コミュニティ係長
- 6 協議事項  
(1) 行政からの報告  
(2) 地域まちづくり協議会の総括について  
(3) その他
- 7 協議状況 開 会 午後 1時00分  
閉 会 午後 2時57分

## I. 行政からの報告

### (1) モデル地区地域まちづくり協議会総括

**流山小学校区まちづくり協議会** (A3の事業報告書参照のこと)

#### ➤ 5事業

- ・ スプリングフェスタ (4月7日～8日)
- ・ 防犯・防災事業 (約150人参加)  
3.11を受けて防災、耐震セミナーを開催。
- ・ 健康維持事業 (約40人参加)  
10.10 フィットネスな一日イベント開催。
- ・ 情報の摂取と発信事業  
協議会通信1号、2号を発行。
- ・ 伝統と文化の維持向上事業 (約150人参加)  
流山小学校の歴史的価値と法話

➤ 改善点については最右欄に記載されているが、24年度については、それらを踏まえて新たな発展を目指す。

**新川まちづくり協議会** (A4の事業報告書参照、自己評価有り)

#### ➤ 5事業

- ・ 協議会運営  
定例会 (定例会12回・臨時会議8回・総会)  
協議会ニュース (NO.1～NO.11)  
HPの運営 (5月23日開設)  
月次報告 (定例会毎12回)
- ・ 地域の課題・お宝発見  
現状把握 (5月11日諸団体へ働き 10団体約100名)  
提言のまとめ (11月17日地域会議33名・  
2月4日事業報告会 約100名)
- ・ 地域の自然・お宝発見
  - ①野草採集・観察 (子ども6・大人9)
  - ②トンボの学校 (子ども16・大人16)
  - ③ホタルの観賞会 (子ども70・大人30)
  - ④米づくり 田植え (子ども25・大人13)

草取り（延べ 40 名）

稲刈り（子ども 50・大人 26）

- ・ 新川小サポート

学校美化（樹木の剪定 大人 7 名）

- ・ 餅つき大会

大会実施・鷹匠教室（子ども 300・大人 200）

- ▶ 改善点としては、現状維持からステップアップを図っていくということである。

### まとめ

モデルとしての事業報告であるので、これを検証しつつ今後のまちづくり協議会の発展に活かしていきたい。検証しつつ評価したい。

### (2) 平成 24 年度の事業申請について

- ▶ 平成 24 年度の申請については、流山小学校区まちづくり協議会と新川まちづくり協議会が継続ということで 2 件あがっており、他は出されていない。この 2 件は実績報告にある事業を継続し地域振興を図るということである。

### (3) 地域まちづくり協議会のパンフレットについて

- ・ 3 月 21 日付けで各自治会に配布済（約 5, 500 部）
- ・ NPO 配布済
- ・ 地区社協については説明が必要と考えるので、今回は見送った。説明については地区社協の担当と社会福祉協議会が話合っって考えていく。

### (4) 平成 24 年度予算について

- ・ 予算については、放射能対策費の増大の影響もあり、大変厳しい状況である。地域まちづくり協議会の事業補助金は、100 万円である。

## II. 検討・質疑

## (1) 地域まちづくり協議会の総括について

### 委員から

- ・ 行政からの報告を受けて議論するが、結論は次回以降とする。6月の任期終了にあたってのまとめの報告書に記載できるよう議論する。

## (2) 平成24年度予算および今後について

### ① 平成24年度予算について

#### 委員の意見

- ・ 平成24年度予算は22億円の増であり、放射能対策費の増加（14億円）との理由では納得できない。また、NPO活動推進委員報酬はずっと増減なしであったが増加しており、全市コミュニティ推進委員会の委員報償費が計上されていない理由がわからない。
- ・ 自治会活動助成金の増加、自治会の維持管理費が大幅に増えているので政策転換をされたのか。事業の優先順位がNPO推進活動、市民参加の推進、コミュニティ推進ということになったのか。

#### 事務局

- ・ 全市コミュニティ推進委員会については、モデル地区の立ち上げは終了した。
- ・ NPO活動推進委員は2名増員になっており、また自治会への助成については、政策的なことではなく、8月に出された自治会館大規模修繕の要望を含んでいるので増額になっている。

### ② 平成24年度について

#### 委員の意見

- ・ 今まで全市コミュニティ推進委員会で行ってきた活動を今後はコミュニティ課がやるということなのか。ますます労力がかかるのではないか。

- ・ 総合計画では平成31年度までに全小学校区に地域まちづくり協議会を設立するとあるが、その旗を降ろしたのか。そうでなければ全市コミュニティ推進委員会がない状態でどうやっていくのか。

#### 事務局の意見

- ・ 全市コミュニティ推進委員会でやってきた活動については考えなくてはならない。
- ・ 後期基本計画が平成25年度から変わるので、平成24年度はローリング時期、検証期間となる。
- ・ 地域まちづくり協議会の設立を基本計画から降ろしたということではない。

### ③ 今後の展開について

#### 事務局

- ・ まちづくり協議会の事業展開としては、地元がどのように関わっていただけるか、広げていただけるかということであるが、まちづくり協議会を立ち上げたことによって、新たな課題が見えてきたことも確かである。流山小学校区については個々で展開が始まったような状況が見受けられるので、それをいかに一つに持っていただけるかということである。そういった検証も必要である。
- ・ シンポジウムでもあったように、既存の自治会の活動の活性化をどうするのかという議論がなされなかったことも事実である。まちづくり協議会の事業補助はあるが、そうではない既存の自治会の活動に対する方向性についても考えていかななくてはならない。行政が地域に出向いていかななくてはならないのではないかと考える。

#### 委員の意見

- ・ 自治会の活性化についてだが、このままでは自治会が衰えていくということで自治会連合を立ち上げたがうまくいかず、

流山市の新しいコミュニティを立ち上げることについて議論してきた。コミュニティ審議会で4年、全市コミュニティ推進委員会で2年議論をして、ようやく立ち上げたところで梯子をはずし、もう一度自治会の活性化ということには違和感がある。

- ・ モデル事業報告会の反応も良く、アンケート結果でも非常に評価されており、まちづくり協議会が定着してきていると総括したばかりである。それを踏まえれば自治会に戻すというのはないのではないか。
- ・ 自治会の活性化についての議論がなかったということについては、本当は議論したかったが、まちづくり協議会に手をとられて出来なかった点はある。
- ・ 全市コミュニティ推進委員会として自治会の活性化が必要かといったら疑問である。しかしコミュニティ課として自治会の活性化を図るということは、行政のスタンスの問題であり委員会として文句は言えない。

#### ④ まちづくり協議会について

##### 事務局

- ・ 自治会にもどすということではなく、既存の自治会の活動をもう少し重視しないといけないのではないかとということである。
- ・ まちづくり協議会の組織作りに走ってしまったのではないかと反省点がある。まちづくり協議会は協議体であり、既存の自治会、PTA、地区社協などのそれぞれの団体が集まって、課題を共有して話し合い、意見交換をする場である。最初は全員が集まらなくてはいけないのではないかと、音頭取りは誰かとといったことを考えてしまったので反省している。
- ・ 地域を本当に住みやすい地域にするにはどうしたらよいのかという視点で、組織づくりではなく、地域に関心をもってもらうことが必要である。今までの議論があったからこそ、既存の自治会等の活動も考えていかななくてはならないので

はないかと気づいた。それから次のステップに行くのではないかと考えている。

#### 委員の意見

- ・ 事務局の気付きは、まちづくり協議会につながることはないか。
- ・ 組織づくりだと言われたが、われわれはそうは思っていない。地域に関心をもってもらうための手順を踏んでいくことをメンバーで共有している、小さなことも協議しながら作っていくというやり方をしてきている。
- ・ 自治会が中心になるが、いろいろな人を集めて地域の総力を結集する姿として提案したものがまちづくり協議会である。
- ・ 課題があるから協議会ができるとのことだが、課題に気付かせないといけない。また、気付いてもなかなかその気にならない。だからある程度工夫が必要なのである。

### ⑤ 今後の活動について

#### 事務局

- ・ 事業展開することによって、その地域がうねっていくのかということが検証の中心になるので平成25年度の事業はやっていく。
- ・ 流山市で15つ作るということについて、基本計画にはあるが、計画通りには難しいのではないかと、絶対に作るということではない。
- ・ 過去に行政主導でうまくいかなかった経験もあり、モデル地区には委員の方に入っていたが、本来は地域から自主的にでてくるものである。いかに立ち上げていくかというきっかけづくりとして動いてもらって自主的な発生を望んでいた。

#### 委員の意見

- ・ 全市コミュニティ推進委員会がなくなったとなると、行政が

やめたことをやっていることになってしまい、東部地区、江戸川台小学校区等、あらたに運動していたところへの働きかけができなくなる。

- ・ 我々なりに動いてきているので、それぞれの後始末がある。市がいらないと決めればとやかく言うことではないが、動いてきていたわけだから、動いている人間を止めると社会的にも残像が残ることを考えてもらいたい。
- ・ コミュニティ課がまちづくり協議会に入っていくというが、行政が入ると市民である委員が入っていくこととは意味合いが違う。
- ・ 長崎地区については、第2コミュニティホームをどうするかが地域の最重要課題でスタートしたが、八木連合との関係で方向性が二転三転しており、コミュニティ課にきちんと説明してもらわないと納得できない。コミュニティ課が関わっていくと言っているが、本当にやってもらえるのか疑問である。

#### ⑥ 委員からの要望

- ・ 新川地区のまちづくり協議会は今まで通り進めていくが、協議会に対してコミュニティ課のバックアップがあると言ってもよいか。
- ・ 市として本委員会が不要だという結論になったということであるから、理由をはっきり、きっちり教えていただいて、6月で解散ということで仕方がない。

( 1 4 時 5 7 分 閉会 )